E 18

写真資料にあらわれた住居における動作様式（1950年代の農村住居の場合）

ー住にかんする基層文化の実証的研究　その1

大阪工大建築　塩谷寿翁

目的・内容・方法：この研究では、現代化[(1)]によるおおきな生活の変革がはじまる以前の住居における生活の場およびそこでの生活の総体にあらわれる生活の諸要素の結合関係を追求しようとしている。それを生活体と生活の場[(2)]との関係に視点をおいてとらえようというのである。50年代にいたる時期の住居において典型化する形態に統合化されていたとみられる生活の場のもつ生活的な意味を日常生活の文脈のなかで説明することは、現代住居の住生活にふくまれているとみられる基層となる生活のしかたの解明にとって有効なものと筆者はかんがえている。

この研究では、公刊されている写真集を資料[(3)]にして、そこに掲載されている写真から生活体ごとの行為・行為にともなう姿勢・行為の場・行為や姿勢に関係している住生活財などを採取している[(4)]。ここではその一部をもとに農村部の住居で日常的におこなわれる行為およびそれにともなう動作・姿勢と行為の場の関係を実証しようとする。うえの目的にむけての第一歩をふみだそうというのである。

結果の要約：50年代の農村部の住居で日常におこなわれる行為には、それにともなう姿勢・行為がおこなわれる場所のあいだに一定の関係をもつ型（動作類型）をみいだすことができる。また住居における生活の場は行為に固有な領域性をもとにくみたてられている。これは具体的には①採取した行為[(5)]は、主屋の床上部分・土間部分・主屋の周辺・住居外などにひろがっており、一定の場的な規則性をもっておこなわれている、②その姿勢は、横たわる姿勢・しゃがむ姿勢・すわる姿勢・腰かける姿勢・たつ姿勢などの基本的な姿勢の系列にわけられるのだが、とられる姿勢は行為によって特徴的なものであり、行為の場とつよい関係をもっている、などとして実証することができる。これらの結果は実際におこなわれている生活場面の傾向としてえられたものである[(6)]。

注(1)1950年代にはじまり現在におよぶ日本社会の高度な産業化の進展にともなう生活の変革。(2)生活体:住居で生活をともにする家族ひとりひとりあるいはその集団、生活の場:生活体の生活になんらかの関係をもつもろもろの事物によって構成される具体的な住居空間での行為の場。(3)資料の採取につかったのは入手した写真集のうち20冊（記載を略す）である。(4)生活体を単位にして779例を採取。(5)食事・炊事・家事・遊びなど・仕事・日常の接客などの行為のほかにこれらの系にふくみえないようなおおくの行為。(6)これまで日本人が住居においてとってきた姿勢は、床面に依拠する姿勢を基調にしたものとして説明されているのだが、この研究をすすめるうえできづいたことは、既研究にしめされている床座・椅子座などの起居様式の抽象的な理解は、現代住居にながれている基層となる生活のしかたやその連続性と変化の説明にとってはかならずしも有効なものではないということである。